

NPO 緑の会

特定非営利
活動法人
NPO緑の会
取手市小文間
3838-1
TEL 0297-
72-8791

NPO緑の会第15回通常総会は5月17日にかたらいの郷で開催され、平成26年度事業報告や平成27年度事業計画等が審議され、承認されました。
また、総会後には、NPO成田緑の会会長藤崎 昇氏による講演があり、「自身の「すい臓がんをどう克服したか」について、および他の二人の事例も含めて具体的に講演していただき、皆さん大いに関心を持って熱心に聞き入っていました。



挨拶する恒川理事長

承認された平成27年度事業計画の要旨

【方針】

事業の進展に伴いそれぞれの分野で、これまでの実績を踏まえ、活動の充実・拡大に努め、生ごみ堆肥化事業、水質浄化事業等の研究・検討を深める。

● 非営利活動

1. 生ごみ堆肥化事業
- ① 参加世帯の拡大に努める。
- ② 堆肥化技術の研究・開発を進める。
- ③ 先進地の視察・研究を進める。



2. 水質浄化、臭気対策活動
- ① 水質浄化活動
4月～11月の第2、第4月曜日のPM13:30を定例の団子作り等の作業日とし、相野谷川、霞ヶ浦及び自宅周辺の排水溝浄化など継続して行う。
- ② 臭気対策活動
藤代公民館に臭気対策として、EM活性液を定期的に届ける。
- ③ 協力事業
地球環境・共生ネットワーク、名橋「日本橋」保存会、日本橋川・神田川の清流をよみがえらせる会などに積極的に協力する。
3. 環境学習活動
藤代小学校の環境学習活動を行う。
4. 研修活動
会員の資質向上の為、各種研修活動を行う。
5. その他
各種イベント、野菜販売会、会報の発行、資材の販売管理など循環型社会実現に向けて積極的に活動を行う。



体験談を話していた
藤崎会長

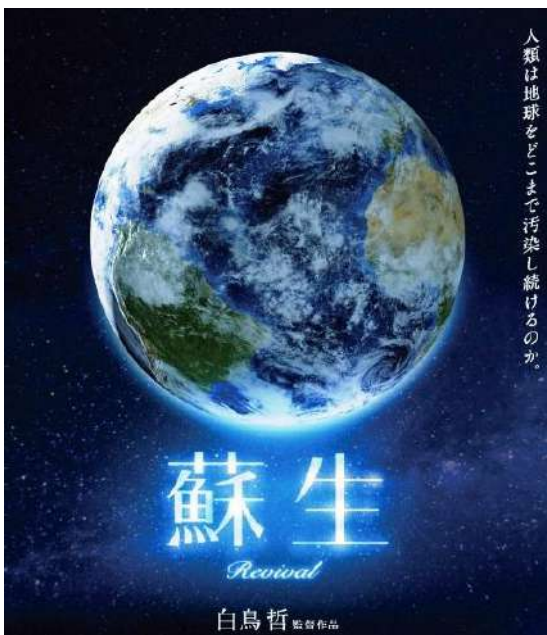


挨拶していただいた
藤井取手市長

● 収益事業

各種イベント、野菜販売会、会報の発行、資材の販売管理など循環型社会実現に向けて積極的に活動を行う。

5月10日、メルパルク東京で映画「蘇生」の特別上映会と記念講演会開催された。



待望久しかった白鳥哲監督による映画「蘇生」が4月から渋谷の映画館「アップリンク」で上映されていますが、5月10日にはメルパルク東京にて特別上映会と記念講演会が開催され、NPO緑の会の仲間もこぞって参加しました。

白鳥哲監督の映画は、2010年公開の「不食の時代」に続き、現在公開中の最新作「祈り～サムシンググレートとの対話～」は、「ニューヨーク・マンハッタン国際映画祭」ベスト・グローバル・ドキュメンタリー・グランプリ受賞など、海外で数多くの受賞をしており、その他の映画作品に「ストーンエイジ」「魂の教育」などがあります。

この日、映画の後には、EM研究機構の新谷取締役研究部長による、●「福島・ベラルーシでのEMによる放射能汚染対策実験から見えてきたもの、EMの開発者比嘉教授による●「シントロピー【蘇生】の法則」について講演があり、白鳥哲監督による●映画「蘇生」にかける想い、について、それぞれ分かりやすく熱のこもった講演がありました。

本来事業の円滑化とサポートのため、ヤコン茶、ヤコン芋の情報発信を引き続き行い、新規販路、取扱品も検討し、事業を拡大する。

野田病院 第23回健康まつりに参加

4月29日、地域に密着して真心の医療を目指す野田病院の恒例の「健康まつり」に今年も出店で参加しました。各種模擬店や健康相談、脳波や骨密度に血糖の測定、リハビリ体操に舞踏、杉本一朗医師による「認知症と腸内細菌」の講演など、多くのイベントがあり、大勢のお客様で賑わっていました。NPO緑の会は、EM商品や野菜などの販売、EM団子作りの実演、EM米のどぎ汁活性液の作り方などを担当したほか、会員の皆さんは交代で各種検査や講習を受講するなど、大いに有意義に過ごしました。終了後、こちらも恒例のようになっていますが、会員全員は、金本ツギ子農園(金本院長のお母さんで現役のお医者さんの畑)にお邪魔して、本当に沢山の立派な大根や玉ねぎをいただきました。



講演中の杉本先生



実験中のバケツ(5個中の3個)



バケツ(5個中の1個)

放射能、高濃度汚染土壌の除染実験開始

堆肥場の雨樋下の土壌が、放射能に高濃度で汚染されていて、その値は毎時0.65ミリシーベルトから0.7ミリシーベルトです。

環境省では、放射性物質汚染対処特措法に基づく汚染状況重点調査地域の指定や、除染実施計画を策定する地域の要件を、毎時0.23マイクロシーベルト以上としています。(測定位置は地上50cm以内)。

今般、この汚染された土壌をEMで除染する実験を開始しました。

その方法は、汚染された土壌を10リットル容のバケツ5個にいれて、そのバケツにA、Eの名前を付けました。毎週1回(土曜日)それぞれのバケツに次のEM等を500cc投入します。Aのバケツには、EM1号活性液をBにはAの10倍希釈液、CにはEM1号活性液原液を400ccとEM3号原液を100cc、DにはCの10倍希釈液を、Eには単なる水だけを投入します。

毎週500cc投入すると液体がバケツから溢れるため底には水分が抜けるように穴をあけてあります。この場合、放射性物質がバケツから流失する可能性があるので水だけ投入するバケツも用意して比較できるように配慮しています。

編集後記

国際園芸学会誌によれば、EMは野菜の生長に対し、70%が効果があり、野菜の収量に対して84%が効果あり、「EMは野菜の収量や品質の向上に効果があり、持続可能な農業に貢献している」と結論づけています。かつて日本土壤学会が真逆のEM否定の判定を行いました。これにより、日本土壤学会はEMの名誉回復を行なう義務があると云えます。(健康生活宣言24号から) KF